



# 和 ～心をつなぐ～

令和4年7月20日  
第2号

## オール1の落ちこぼれ、教師になる

和光中学校では、毎月「道徳の日」にさまざまな人の生き方や社会情勢について話を聞き、自分自身の心と向き合い、じっくり考える時間をもっています。

7月は、10万部のベストセラー本「オール1落ちこぼれ、教師になる」という本を書いた元高校の先生「宮本延春（のぶはる）」さんの生き方に学びました。何人かの感想を紹介します。



### ☆ 1年生 ☆

- やっぱり、どんなヤツでも頑張れば何でもできるようになるということが分かりました。最後の「悩みについての名言」は、「悩むよりも行動した方が良い」というところが心に残りました。どんな家に生まれようがどんな見た目だろうが、結局は自分自身がどうしたいかだけで大きな何かが変わっていくんだろーと思いました。
- 私が考えたことは、「悩みとは何か？」です。私にもいろいろな悩みがありました。でもこの話を聞いて、それは本当に考えるべき悩みなのかと思いました。悩みができたとき、考えるべきか、考えないべきか、この二つをちゃんと考えていきたいと思いました。

### ☆ 2年生 ☆

- あきらめなければ可以的。
- 中学のときの成績がどんなに悪くても、夢をあきらめなければ、夢は必ず叶うんだと思いました。夢をあきらめないようにがんばろうと思いました。がんばります。
- 興味をもったことを本気ですると宮本さんみたいに前よりいい人生になると思いました。

### ☆ 3年生 ☆

- 僕がすごいなと思ったところは「23歳で算数ドリル」です。今の自分に何ができるかをよく考えて自ら行動できているところがすごいと思いました。僕もまねて自ら行動したいです。
- 通知表の結果がヤバくても、毎日のようにいじめられても絶対にあきらめない姿をととても尊敬します。私も頑張りたいです。
- 環境に恵まれなかっただけで、「努力をするという才能」が開花したのかなと思います。自分の力だけで成り上がることができるのはすごいです。
- 恥ずかしがらずに悩みと真面目に向き合ったからこそうまくいったのだと思います。

宮本さんは、1歳のときに実の両親と別れ、養子として育ての親に預けられました。小学校3年生から勉強が嫌いになり、ちょうどそのころ「いじめ」に苦しむようになります。その後、小学校、中学校と転校を繰り返し、その度に精神的にも肉体的にもひどい「いじめ」にあいました。

中学校1年生の時にもらった通知表は「オール1」。その後も音楽と技術で「2」をもらったことはあっても、それ以外は常に「1」。英単語で書けたのは「book」ぐらい。九九も「2の段」までしかできませんでした。当然のように高校受験をあきらめ、中学卒業後は職業訓練校に通いました。その頃、父親が病気で倒れ、母親のパート収入だけでは食べていけない苦しい日々が続きます。職業訓練校を卒業した後は、大工の見習いになったものの、親方から毎日のように口汚く大声で怒鳴られ、ついに耐えきれず、2年で大工の道をあきらめました。

ちょうどその頃、母親が癌で亡くなり、後を追うように父親も病気でこの世を去りました。ついに、18歳にして身寄りのない「天涯孤独（てんがいこどく）」となり、ミュージシャンに憧れて音楽活動をしたり、アルバイトをしたりして5年ほどが過ぎた頃、あるテレビ番組がきっかけで勉強に目覚めることとなります。NHKの「アインシュタインロマン」という番組です。この番組は、あの有名な物理学者「アインシュタイン」が世界に与えた影響をわかりやすく解説するととても面白い番組だったそうです。宮本さんは、この番組を観て感動し、勉強を始めました。すでに23歳になっていましたが、興味をもった物理学を大学で勉強したいと考えるようになりました。

さて、このとき、宮本さんは何から勉強し始めたと思いますか？ 答えは、小学校の「算数ドリル」です。自分一人で算数ドリルを一生懸命勉強しました。そして、24歳で豊川高等学校定時制に入学します。1年生の時に読んだ科学雑誌『ニュートン』の「天文学者になるには」という記事を読み、目指す大学を国立名古屋大学に決めました。それからというもの、本気で勉強し続け、見事第1志望の名古屋大学に合格。そのまま大学院で勉強を続けてついには「博士課程」に進学しました。

36歳になったとき、母校でもある豊川高等学校の教員に採用され、その後、活躍が認められて、38歳のときに、日本国政府（内閣）の「教育再生会議委員」に任命されました。

宮本さんは、著書の中で、自分を苦しめた「悩み」について、次のように語っています。

・・・悩みというものは、私の経験上、大きく二つに分かれていると受け止めています。一つは、「いくら悩んでも何も変わらない悩み」、もう一つは「悩む価値のある悩み」です。「悩んでも何も変わらない悩み」というものは、明日の天気のように自分の力ではどうにもならないものです。いくらクヨクヨして、ウジウジ悩んでいても結果や現実は少しも変わりません。余談ですが、あなたは1年前の悩みを覚えていますか……。もし覚えていなければ、その程度の悩みだったということです。別の言い方をすれば、時間が解決する悩みだったのかもしれませんが。仮に、今悩んでいることも、1年後には忘れられているならば、立ち止まって苦しい時間を過ごすよりも、もっと楽しいことに時間を使うか、この悩みを解消するために、自分にできる努力をする方が意味があるのではないのでしょうか。もし、明日の天気が心配ならば、晴れるかどうかを悩むよりも、雨のときの対策をできる限りしておくことです。悩むときには、「これは悩むことで何かが変わるのだろうか」と自問自答してみてください。おそらくじっと悩むよりも、行動に移す方が良い結果につながるはずですよ。

#### ☆ 保護者の方からの感想 ☆ 6月「42 世界を変えた男 ジャッキー・ロビンソン」

- ・周りの人の心を動かすためには自分も変わらなければいけない。やり返さない「勇気」をもつことはすごく努力が必要……。我が子もこれから社会へ出て行くが、さまざまところで勇気や努力が大切になってくる。それを乗り越えられるたくましい人間になって欲しいと思う。
- ・アメリカに今も根強く残る人種差別。そんな中、75年も前に果敢に立ち向かった野球選手がいたことを初めて知りました。子ども達もこの話を聞いて差別に立ち向かう勇気をもってほしいと思います。